

# 大明小学校 校長室から

令和3年5月25日

No. 3

文責 校長 穴山直樹

## GIGA スクール元年

新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休業に伴い、学校と家庭等をつなぐリモート学習が話題になりました。

政府は5年間で計画していた一人一台の端末と高速大容量の通信ネットワーク整備を前倒しして令和2年度内に終わりました。そして、本年度から各学校での活用が開始されています。一人一台の端末の効果的な活用を通して、子どもたちの資質・能力を育てていくことについての具体的な内容等は、各学校に任されています。そんな意味でも本年度は「GIGA スクール元年」と言えます。本校でも各学年とも「GIGA 開き」を4月から5月にかけて実施し、本格的な実施に向けて準備を進めているところです。

### ○各授業では

子どもたちの実態にあったタブレットの活用方法を学ぶこと。アナログとデジタルの効果的な組み合わせ方を学ぶこと。子どもたちのICT活用能力の向上等の活動が考えられます。また各教科や各領域、各活動において学習内容や活動内容を効果的に実践していくためにタブレットをどのように活用していくかを考え活動していくことが大切になります。

### ○今後は

情報モラルや情報セキュリティの教育、協働学習という点から友達とのつながりを意識し、意見交流や調べ学習や考えを構築する場面での活用等も考えられます。各学年の今後の活動については各学年のたよりやこの紙面にて紹介し、保護者の皆様方にもお知らせしていこうと考えています。

## 子どもをほめること

子どもを育てていくのに、ほめて育てることが推奨されています。（「何をいまさら」「そんなこと当たり前でしょ」というご意見も多くあるかと思いますが、）大人も自分がほめてもらいたいことを良いタイミングでほめられると本当にうれしいものです。実のところ私自身も人から批判されたり、叱られたりするよりも褒められることのほうが伸びるタイプであると確信しています。やはり、叱って育てるよりもほめて育てた方がいいことは確かなことです。しかし、大人が下手にほめることで逆の影響が出てしまう場合もあります。

例えば…、いい加減な掃除をしている子どもたちに「すごいねえ、さすが〇〇だねえ。がんばってるね。」と大人が声をかけたとします。この大人を子どもたちはどう思うでしょう。子どもたちは、大人の心を読むことには敏感です。口先だけでほめても、その腹の内は見透かしています。たいしてがんばっていないのにほめられると、この人は自分たちのことがよく分かっていない人だと思ってしまいます。もしかして皮肉を言われているの…？などと勘ぐってしまうことになります。このようなほめ方では子どもは育ちません。

また、ほかの子と比べるほめ方も感心できません。「〇〇さんよりがんばったね。」「〇〇に勝ったね。すごい！」といった、ほかの子と比べるほめ方は、結果だけにこだわり、努力する目的を見失わせ、人の目ばかりを気にする子に成長するリスクがあります。友だちのいいところを認めたり、友だちの成功を喜ぶことができなくなったりと、劣等感や妬みの気持ちが芽生える可能性もあります。

さらに、報酬を与えることにも難しさがあります。成績や結果がよかったら、物を与える、買ってあげるといったことは、子どもの物的要求だけを高めることにつながるよう、慎重にすることをお勧めします。まして、成績が悪くなったからおこづかいは無しなどとペナルティを与えることは、子どもにいい影響はないといわれています。同じことをもし自分がされたらと考えると悲しくなるのは私だけではないと思います。

保護者の皆様のほめ方や叱り方の参考にいただければ幸いです。